

(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日：令和2年 6月 日

作成者： 岡部 記代子

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名 ゆめ ぱわー きかく	
夢パワー企画	
事業名 心理学応用の公開講座	日時 (期間), 場所
「パレアナ・カフェ」の展開 交流分析の応用として物事を明るく捉え 前向きに生きるための試行提案を語り合う。	令和元年5月17日以降10回開催 午後1時30分～3時頃 リードあしや
内容 (実績) *実施したことを具体的に	受益者数
第1回目(令和元年5月17日) (明るいニュースの座談会) 第2回目(令和元年6月14日) (愛言葉はありがとう) 第3回目(令和元年7月19日) («ありがとう」出版への熱い思い) 第4回目(令和元年8月16日) (何事も喜びに変える発想) 第5回目(令和元年9月13日) (ストロークの実践) 第6回目(令和元年10月7日) (ありがとう出版記念) 第7回目(令和元年11月15日) (居場所の在り方) 第8回目(令和元年12月13日) (認知症予防NPOとの交流) 第9回目(令和2年1月24日) (当たり前の素晴らしさ) 第10回目(令和2年2月14日) (小説少女パレアナの朗読)	(多数)人
	参加者数
	(述べ 90)人
成果 (社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
「自分を知る」「相手を知る」「物事を前向きに捉える」という思考の大切さを「語り合い形式」で具体的事例に基づいて試行することによって参加者に共感の兆しが見えている。社会に直ちに大きな影響を与えるものではないが、一人ひとりの周辺(縁する人)に少しずつでも参考にしたいとの想いの輪が広がっていくことが期待できる。	
今後の展望 (どのように継続、発展するか)	
「パレアナ・カフェ」の充実と拡大を目指します。 「エレナ・ポーター」が書いた小説に登場する少女(パレアナ)は、自分が出会う人達に亡き父に教えられた「何でも喜ぶ遊び」を伝えます。 どんなに苦しい辛いことでも、どうすれば喜びとしていけるかということのをいとも簡単に実行するパレアナに縁した人達は感動の輪として大きく広がっていく物語を現在社会で応用実践する試みを「パレアナ・カフェ」と名付けて取り組んでいます。 興味を持つ人達一人ひとりが「パレアナ」になったつもりで自分の居る場所で「喜びの実現(夢や希望の実現)」に向けて取り組むことにより生きがいある社会を築くことを目指す取組ですが、令和元年度は各種の明るい話題を語り合うことに重点をおきました。 次年度は「各種の明るいニュースを教材として」交流分析との関連性を深め自己を活かし、「社会活動によりよい影響を与えることのできる人間形成の支援をする」ことを目指します。	